

|||||

巻頭言

|||||

JNNS の国際活動の舞台として APNNS を活用しよう

東京大学大学院工学系研究科 廣瀬 明

2016年1月1日、アジア太平洋神経回路学会(Asia-Pacific Neural Network Society: APNNS、<http://www.apnns.org/>)が発足しました。筆者は現在、会長を拝命しています。アジア太平洋神経回路会議(Asia-Pacific Neural Network Assembly: APNNA)からの衣替えです。JNNS 会員の皆様にも多く会員になっていただいています。その目指すところは、「ローカルに、かつグローバルに、ニューラルネットワークの研究と教育を促進する」ことです。具体的には次のことがらに意識的に取り組みます。

- (1) 多様性：参加する国/地域のローカルなイベントを、技術的に、ときには資金的に支援する。
各国/地域でのニューロ・コミュニティの形成を促進する。多様性を重視する。
- (2) 透明性：運営の中心となる理事や委員の選出方法と役割を明確にする。
組織の透明性をより高くし、若手の活躍や萌芽的分野の奨励を強化する。
- (3) 安定性：国際会議 ICONIP の開催にあたって、一部の定型作業を APNNS が行う。
論文の質を向上・安定させる。研究者数が多くない国/地域でも開催可能にする。

前身の APNNA は 1993 年に甘利俊一先生のリーダーシップにより、各国/地域の研究者の緩い集合体として発足しました(<http://www.apnna.net/>)。13 の国/地域が参加して国際会議 International Conference on Neural Information Processing (ICONIP)の開催を各年のローカル委員会とともに担ってきました。日本からの元会長には福島邦彦先生、山川烈先生がいらっしや、また日本からの理事も多く、その活動を活発に展開してきました。JNNS 会則の「目的および事業」にも「アジア太平洋神経回路会議の一員としての活動」が組み込まれ、これが重視されています。

いずれの学問領域にも周期的な栄枯盛衰があります。盛り上がっている分野をいっそう奨励するだけでなく、踊り場にある分野を活気付け次の展開につなげることも大事です。APNNS ではその機能を強化し、近隣分野や分化していった分野のさまざまな研究者が年に1度集まり、わいわい議論し、タネを作り育てるきっかけとなる場を作ってゆきます。

JNNS から見ますと、これを国際活動の場として活用できます。JNNS の活動は会誌と大会以外にも、各種ワークショップやセミナー、スクール、時限研究会などがあり、大変活発です。これら企画を、APNNS との共催企画として国際開催してみませんか。数年に一度、いかがでしょう。たとえば、その年の ICONIP と抱き合わせての開催や続けての開催(連催)にすると、スムーズに国際集會が実現で

きるはずで、そして、企画の考え方やノウハウを各国/地域のローカルな活動にも提供できます。コミュニティの輪が広がります。ICONIPとは独立の日程でも構いません。皆様、ぜひともご企画・ご提案ください。

また、もし未だ APNNS に加入していない JNNS 会員の方がいらっしゃれば、ぜひ APNNS にご登録ください。JNNS 事務局にその旨をご連絡ください。APNNS 会費は実質無料です。JNNS がその国際活動費としてこれを拠出しています。これを活用しない手はありません。APNNS へのますますの積極的な参加、活動をお待ちしています。APNNS となって初めての国際会議である ICONIP 2016 Kyoto (<http://www.iconip2016.org/>)が、今年 10 月に京都で開催されます。皆様、まずは京都でお会いしましょう。